

日本社会では、時代が世の終焉と救済を予言した世紀末をとおりすぎても、「破壊的カルト」やそれまがいの団体が物議をかもしだす状況は一向に変わりません。神秘主義や精神世界は、多くの現代日本人の心の重要な位置を占め、それが科学に置き換わる日はまずないといえるのではないのでしょうか。テレビ局や新聞のようなマス・メディアでさえも、毎日のようにそうした情報にあふれていて、そうした「こころ」の世界に影響を及ぼしていると思われるます。

古い、超能力、タタリ、癒し、奇跡の治療といったオカルト的で欺瞞にあふれた感わしの情報は、時としては救済や娯楽を超え、生命を脅かし、人権を蹂躪し、財産まで奪ったりする集団を増長させています。さらに最近ではインターネット・メディアの普及で時空を超えた巨大なオンライン社会が新たに出現しました。

メディアはこのような社会に生きる人々にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。このシンポジウムでは、このようなメディアの影響力を検証し、情報発信の責任や、望まれる姿勢、また対策を共に考えたいと思います。

司会者

西田公昭（静岡県立大学助教授 JSCPR理事）

話題提供者

櫻井義秀（北海道大学教授 JSCPR理事）

社会学を専門とし、わが国におけるカルトの問題に関する多くの研究を行い、内外の学会において積極的に発表してこられている。そこでご専門の宗教社会学の立場から、カルトの発生とメディアとの関連を論じてもらう。

伊東 乾（東京大学助教授）

物理学を専門とし、映像メディアの脳への影響という観点からマインド・コントロール現象を研究している。また音楽プロデューサーであったり、作曲家としても数々受賞なさったりと多彩に活躍されている。そしてオウム真理教の・豊田被告の友人でもあることから、メディア影響とカルトの関係を論じてもらう。

有田芳生（フリージャーナリスト）

カルト問題に詳しいジャーナリスト。靈感商法批判キャンペーンに参加したり、統一教会やオウム真理教などの関する数々の報道に従事してこられた。メディア人という立場からマス・メディアの影響と責任を語ってもらう。

指定討論者

滝本太郎（弁護士 JSCPR理事）

2006年11月11日(土)

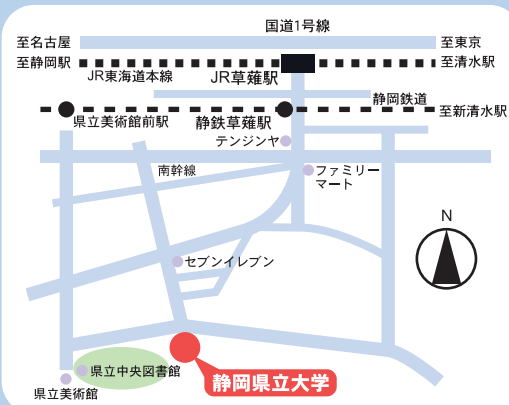
13:30～17:00

静岡県立大学

(静岡市駿河区谷田52-1)

看護学部 4F 13411教室

12:30～ 受付
13:30～13:40 挨拶 楠山泰道(JSCPR代表理事)
13:40～15:40 シンポジウム前半
15:40～16:00 休憩
16:00～17:00 シンポジウム後半
17:30～19:30 懇親会



参加費：無料（但し、資料代として500円程度要するかも知れません）

キャンパスの隣は、ロダン館などを含む静岡県立美術館もあり、散策に適しています。もちろん、富士山も絶景のポイントですので、少し、早めに来て頂いて、周辺を散歩なさっていただくのもお勧めです。



問い合わせ
神奈川県大和市中央2-1-15 パークロード大和ビル2F(〒242-0021)
大和法律事務所 滝本太郎 気付 日本脱カルト協会
FAX:046-263-0375 / Email:takitaro@yha.att.ne.jp